

奥州遺産

No.37

ときを越え
受け継がれるもの

日高小路

＝水沢区日高小路＝

水沢区の横町から西へ、まっすぐ伸びる日高小路。日高神社への参道であったことから、この名が付けられたといわれる。

江戸時代、この小路には一般町人や農民の居住は許されず、多くの武家屋敷が軒を連ねていた。日高神社の現社殿は水沢伊達氏（留守氏）初代である宗利（むねとし）によって建立されており、境内には祖霊舎（瑞山神社）が祀られている。二代・宗直（むねなお）の墓所もあり、重要な家中小路であったことがうかがえる。代々、上位家格で幕末には家老を務めた小幡（おぼた）家の長屋門や、大番士（おおばんし）を務めた安倍（あべ）家の住宅など歴史的建造物も小路沿いに残されている。安倍家は明治32年に緯度観測所の臨時事務所が置かれるなど、水沢の歴史に名を残す建物である。今でも武家屋敷のたたずまいを多く残す日高小路。見る者を城下町水沢の歴史の世界へと誘う。

広告



1 日高小路の中間付近から日高神社方面を望む 2 安倍家の正門。安倍家は明治9年と明治14年の明治天皇御巡幸のときに立退所として指定された

